

アサヒグループホールディングス株式会社  
2025年12月期 事業進捗説明会 説明概要

日時：2025年11月27日(木) 15:30~16:30

当社登壇者：取締役 兼 代表執行役社長 Group Chief Executive Officer 勝木 敦志

◆挨拶

- 当社は、9月29日のサイバー攻撃によりシステム障害が発生し、現在システムの全面復旧に向けて全力を尽しておりますが、既にご案内の通り、11月12日に予定していた第3四半期決算の発表を延期し、また、本日、通期決算の発表も延期させて頂くことを開示いたしました。
- 関係者の皆様に多大なるご迷惑をおかけしていることに加えて、決算発表日の延期に至ったことに関しまして、株主・投資家の皆さまにも、深くおわび申し上げます。
- 本日の説明会は、障害は日本で管理しているシステムに限られるため、欧州やアジアパシフィックの第3四半期までの進捗状況、および日本の各事業の現状などにつきまして、概要をご説明するために設定させて頂きました。
- 引き続き、サイバー攻撃の影響などにつきましては、詳細な説明はできない部分もございますが、可能な限り、事業の進捗や今後の見通しをご理解いただきたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

◆エグゼクティブ・サマリー (P1)

- 決算発表は延期いたしましたが、第3四半期までの業績の進捗としては、欧州やアジアパシフィックにおいては、両リージョン共に売上収益は計画を下回りましたが、事業利益は計画ラインで進捗しております。
- 日本・東アジアについては、9月末分の影響を確定できていないものの、開示済みの「アサヒグループ月次販売動向」に記載している、1-8月累計の売上収益の前年比、および事業利益については、国内3社ともにほぼ計画ラインの進捗となっております。10月以降の状況につきましては、後程ご説明します。
- そうした進捗を踏まえた今後の見通しとしては、欧州やアジアパシフィックでは、通期の売上収益は計画を下回る可能性があります。事業利益につきましては両リージョンで取り組んでいる収益構造改革の成果などを積み上げ、計画の達成を目指してまいります。

- 日本・東アジアでは、第4四半期の売上収益、事業利益ともに計画を大幅に下回ることになる見込みですが、各種システムの回復や出荷数量は徐々に回復してきており、早期に受注、出荷体制の正常化を目指してまいります。
- 尚、本システム障害により2025年通期の連結業績は悪化することになりますが、これにより「中長期経営方針」や2月に更新した「主要指標のガイドラインおよび財務方針」を変更することはありません。
- 引き続き、事業ポートフォリオの強靱化を力強く推進するとともに、現在実施している自社株買いを含め、資本効率の向上にも継続して取り組み、中長期的な企業価値向上を目指していくことを、改めて表明したいと思います。

#### ◆ 欧州 (P2)

- 第3四半期までの売上収益は、主に消費環境の低迷や中東欧の最盛期における天候不順の影響により、ポーランドやチェコが前年を下回ったことなどにより、3.0%の減収となりました。
- 下段に記載しているように、ビールとビールテイスト飲料の売上単価は着実に向上しましたが、販売数量の減少により、トータルでは計画を下回る進捗となっております
- 尚、事業利益については決算発表前のため具体的な数字は開示できませんが、数量減に対して、収益構造改革など変動費・固定費のコストダウンを推進したことにより、計画ラインの進捗となっております。
- 主な国別の販売動向としては、ポーランドは消費全体の弱含みに加え、天候不順の影響を受け、販売数量が前年比で1桁台後半の減少となりました。また、チェコとイタリアについても、シェアは拡大していますが、天候影響により1桁台前半の減少となりました。
- 一方で、ルーマニアではノンアルコールビールの成長などにより前年並みを維持し、UKでは「女子ラグビーワールドカップ」のパートナーシップ効果などにより、前年を上回って推移しております。
- ポーランドを除く主要国では、シェアは維持・拡大しており、欧州全体の競争優位性は一段と高まっていると考えております。

- 課題となっているポーランドにつきましては、消費者の節約志向の高まりに加え、当社がこれまで積極的に進めてきた単価上昇の影響もあり、シェアは低下傾向にありました。
- 但し、市場全体の減少は続いてますが、足元では戦略投資の強化により、7-9月の市場シェアは回復傾向となっております。引き続き、中期的視点で投資を継続し、強固な事業基盤への回復を図っていく方針です。
- また、グローバルブランドについては、システム影響のため概算値になりますが、1-9月の販売数量は『Asahi Super Dry』は前年比13%程度の増加、『Peroni Nastro Azzurro』は5%程度の増加と、最盛期において成長を加速させており、パートナーシップの効果などを最大限発揮しております。
- 欧州では、インフレやコスト環境が落ち着いてくる中、今後も各国の主力ブランドを強化するとともに、グローバルブランドの拡大展開もより一層加速してまいります。

#### ◆アジアパシフィック (P3)

- 第3四半期までの売上収益については、主にオセアニア酒類は減収となりましたが、オセアニアと東南アジアの飲料が前年を上回ったことなどにより、トータルでは前年比+3.1%の増収となりました。
- 計画に対しては、オセアニア市場の回復が想定よりも遅れていることもあり、トータルでは計画を若干下回る進捗となっております。
- 事業利益については、数量減少の影響と固定費がコストアップとなったものの、ミックス改善や原材料など変動費のコストダウンにより、計画ラインの進捗となっています。
- オセアニア酒類の動向としては、豪州のビールでは需要低迷により前年比1桁台前半の減少となりましたが、『Great Northern』や『Carlton Dry』を中心とするコンテンポラリービールについては、前年比1桁台前半の増加となり好調を維持しています。
- なお、ビールとビールテイスト飲料カテゴリー合計の単価については、第3四半期累計で0.3%の低下となりましたが、価格改定効果やプロモーションの適正化などにより、第2四半期以降は単価上昇が継続しています。

- また、豪州の RTD についても、上半期では昨年大幅に増加した反動減がありましたが、主力ブランド『Hard Rated』からエクステンション商品を発売した効果もあり、第3四半期では増加に転じております。
- オセアニアの飲料につきましては、PB の契約終了に伴う影響などにより販売数量は1桁台前半の減少となりましたが、エナジードリンクの新商品の発売や炭酸飲料へのマーケティング強化などにより、販売モメンタムは向上しています。
- 東南・南アジアについては、主力ブランドが堅調に推移し、また飲料におけるミックス改善や、酒類での費用適正化などにより、利益面でも計画を上回る進捗となっています。
- 今後も、豪州において、最盛期に向けた適切なマーケティングにより単価改善を伴う需要回復を図るとともに、コストの効率化も推進していきます。また、東南・南アジアが加わったアジアパシフィック全体で、マルチビバレッジ戦略を更に深化させるなど、中長期的な成長に向けた取り組みを強化してまいります。

#### ◆日本・東アジア (P4)

- 現在、徐々に復旧しつつあるもののシステム障害の影響が続いていることにより、各社では引き続き手作業での受注及び出荷を行っています。
- 現時点で集計できた日本各事業の10月の売上収益の前年比は、11月13日に開示しました通り、概ね酒類で前年比1桁台半ばの減少、飲料で4割程度の減少、食品で2割台半ばの減少となりました。
- また、各事業において、主力商品を中心に出荷アイテムの拡大を図っており、足元11月中旬までの状況については、概算値になりますが、酒類が前年比2割台前半の減少、飲料も1割台後半の減少、食品が1割台前半の減少となっています。
- 酒類については、10月より前年比が若干悪化していますが、10月は9月末の出荷がずれ込んだことや、流通段階における在庫が増え、その反動が11月に出たことなどが影響しているものと見ております。
- 足元の状況としては、飲料や食品と同様に、酒類についても出荷可能なSKUは順次拡大していますので、今後の出荷数量は徐々に回復していくものと想定しています。

- なお、現在物流関連システムの回復に全力を挙げて取り組んでおり、12月上旬にはリードタイムが通常より長い状態ではありますが、従来の Electronic Ordering System での受発注を再開します。
- また、来年2月までには、リードタイムの問題も段階的に解消し、一部SKUの出荷制限は残りますが、概ねシステム障害発生前の状態への回復を目指していきます。
- 更にこれら物流の回復と同時並行し、システム全体の堅牢性の向上、セキュリティー監視の仕組みの見直し、万が一に備えた事業継続計画の強化・再設計に取り組んでまいります。
- 日本の短期的な業績悪化は避けられませんが、強いブランド群を基盤とした各事業のファンダメンタルズは揺るがないものと確信しています。早期に事業基盤を立て直し、この危機を乗り越え、より強い事業へと成長をさせていく方針です。

#### ◆最後に

- リージョンの進捗や見通しのご説明は以上となりますが、本日は「サイバー攻撃による情報漏えいに関する調査結果と今後の対応について」もリリースしております。
- 情報漏えいが発生、またはその恐れがある個人情報につきまして、昨日、個人情報保護委員会にも確報として報告しており、対象の皆様には順次お知らせしてまいります。
- 今後も、社員一丸となり、一刻も早いシステムの全面復旧に向けて全力を尽くすとともに、掲げた再発防止策に取り組み、グループ全体での情報セキュリティー体制の強化に努めてまいります。
- また、システム障害による業績への影響を含む第3四半期決算および通期決算につきましては、システムが回復し、確定次第、速やかに開示させていただきます。
- 改めて、皆様にお詫び申し上げるとともに、引き続き、末永いご支援をお願いいたします。

#### <IR 部門からの補足> 情報開示に関する方針

- 本日の事業進捗説明会は、決算発表を延期する中、事業進捗の概要をご理解いただけるよう実施させて頂いております。
- 但し、正式な決算開示手続きを経ていない中での情報開示となりますので、利益の絶対額などへの言及はできないことを予めご了承願います。
- また、通常の決算発表後の取材などでお答えしている、欧州の各国別実績やオセアニアのカテゴリー別実績など、トップラインの詳細につきましても、現時点ではご説明を控えさせていただきます。
- 決算発表前のサイレント期間が続いている状況となりますので、フェアディスクロージャーの観点からも、ご理解を頂けますよう、よろしくお願い致します。

以上